

【風をつかまえた少年】ウィリアム・カムクワンバ（1987年8月5日）偶然にも私と同年齢の彼は、世界から最も有名なマラウイ人とも言われています。なんと日本で使用されている英語の教科書にも取り上げられた発明家です。彼はわずか14歳の時にユーカリの木と自転車の部品や、身近で入手した廃材で風車を作成しました。そして、その風車を利用し風力発電システムを作り上げたのです。微量の電気量ではありますが、電気の無い村にとっては奇跡とも言える出来事でした。彼は幼い頃から何にでも興味を抱く子供だったそうです。発電システムを作るきっかけとなったのは、自転車のライトを見て「なぜライトは点くのか」という疑問からでした。彼は独学で図書館にある「エネルギー利用」についての本を読み、知識を身に付け、風車を作成し、実際に発電するまでに至ったのです。しかし、彼は決して恵まれた環境に育った訳ではありません。彼の家は裕福でなく学校にも通えず、食事也十分にとれない様な生活の中でしたが、彼は勉強する事を諦めなかったのです。さらに不運にも、村の周囲の人からは変人扱いされ、行動は理解されませんでした。当時の干ばつや自然災害を「風車の呪い」とされ、非難を浴び続けました。それでも諦めなかったウィリアムは村で唯一の明かりを灯す事となったのです。その後、メディアに取り上げられ一躍有名人となった彼はTED（＝世界的講演会）に出演し世界的注目を浴びる事となりました。その後アメリカの大学を卒業し、現在もマラウイの為に活躍しています。また、彼のストーリーは英国の映画会社により映画化され今月公開されました。（映画The Boy Who Harnessed The Wind）私達は限られた生活の中で、できない理由を探しがちです。時間が無い、お金が無い、環境が違う。でも彼は、出来る理由を探し続け成功を成し遂げたのだと思います。彼の実家（実際の風車がある村）は、私の任地の隣の県にあります。もし会える機会があれば是非会ってみたいと思っています。、、、とこの文章を書き終えた日の夜。知り合いから連絡が来ました。実はウィリアム氏の近くに住む人に色々情報を訪ねていたのですが、偶然にも本人が近日帰省するとの朗報。本人とアポを取ることが出来き、実際に会うことが出来たのです。彼がアメリカに戻るまさに前日の事でした。

<https://youtu.be/PYt41QKmxus> (TED出演動画)

<https://youtu.be/BZ40LdcoHvo> (Netflix映画予告)

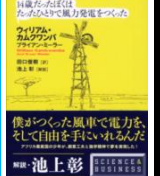
検索

【後記】今年度もお疲れ様でした。歳月が過ぎるのは早いですね。一年前のマラウイ通信は、まだ第3号でした。残された6カ月ほど、ネタが尽きない事を祈っています。というのも、最近マラウイに慣れてきて、気づきが減りました。日本人からすると興味深い事も、当たり前になってしまい「ちょっと記事にするほどの事ではないな〜」と、ためらってしまっている自分が居るからです。新鮮さや新たな感動とは本当に素晴らしい物ですが、簡単には出会えないものですね。

マラウイ通信

渡邊拓人 17-2
行政サービス
ドーワ県立病院

風をつかまえた少年



池上彰



幼少期の本人



写真右本人

【たまご】マラウイの限られた栄養源の中で卵は重要な存在です。市場では1個約15円で売られています。日本の食卓の様に白ご飯に生卵をかけて食べたいのですが、危険ですので絶対できません、衛星的に不可能です。実はマラウイの卵と日本の卵では違いがあります。外見や大きさは至って同じなのですが、黄身の色が少し異なります。日本の卵の様に黄色ではないのです。薄い黄色で、カロリーオフのマヨネーズの様な色合いです。鶏が食べている餌の違いだと思いますが、いろいろな所に日本との違いが隠れていますね。

茶わん蒸し
なのに真っ白

